

VIRGINIE RAISSON

LONDON
SPEAKER
BUREAU

- French analyst and researcher on international relations



Topics

- Government
- Politics

Virginie Raisonはフランスのアナリストで国際関係の研究者です。Jean-Christophe Victorと共同で、1992年に設立された地政学と先見の明のある研究所であるLEPACを運営しています。

歴史、国際関係、地政学を専攻し、かつては欧州連合の専門家だった大学としてVirginie Raisonは海外で定期的にトレーニングコースを受けています。これらは彼女にフランスと海外の外交官だけでなく、ジャーナリスト、サイエンスポ学生、国際企業理事会、EU当局者と地方当局などに話す機会を与えます。

他の組織の中でも、フランスの外務省に関連する戦略事務局、そして医療組織のMédecins Sans Frontières（アメリカ）またはユニセフは、彼女に何度も主要な国際フィールドワークミッション（分析、交渉、評価）の責任を与えました。紛争地帯（バルカン、アフリカ）とアジア。

その上、彼女はCités des Sciences（パリ、フランス）やParc d'aventures（科学 Mons、ベルギー）で発表されたもののような国際的な話題に関連していくつかの文化的プロジェクトに参加しました。特に、愛知万博2005（日本）に設置されたフランスのパピリオンを対象とした撮影である「未来には未来があるのか」という脚本を共同執筆しています。

1992年以来、彼女がフランスの本、雑誌や雑誌で発表した数多くの分析と地図製作の作品に加えてVirginie Raisonは "Le Dessous des Cartes"（フランス - ドイツチャンネルで放映される毎週の地政学テレビ番組の定期作家です）Arteそして2005年と2007年に発表された2つの同名のアトラスの共著者。

彼女は現在、主に「フューチャーズ・デュ・モンド」、すなわち現在直面している主要な地球規模の問題に関する包括的な先見調査、分析および地図作成プロジェクトに専念しています。